

第3回 令和3年度使用教科用図書加古川採択地区選定委員会 議事録

1 開会

2 会長あいさつ

3 協議事項

(1) 第2回加古川採択地区選定委員会協議に関する報告書の確認について

(第2回選定委員会での協議内容をまとめた選定報告書の内容確認について事務局から説明)

会 長：先ほどの説明に関しまして、何かございますか。

委 員：議事録も毎回出ていますが、見せていただけますか。

事務局：議事録は、8月に、委員の皆様へ、第1回から第3回までのすべての議事録をご確認いただき、9月1日にHPで公表するという形になります。

会 長：よろしいでしょうか。事務局にはお世話になりますが、よろしく願いいたします。

(承認)

(2) 令和3年度使用中学校教科用図書の選定について

会 長：教科用図書選定について協議に入ります。選定委員会としては、それぞれの立場からしっかり意見を述べていただいて、それを伝えることが大事であると考えておりますので、本日も、積極的に発言していただいて、「この教科書がふさわしい」という意思表示、発言をよろしくお願いいたします。

①数学科教科用図書の選定について

会 長：数学から入ります。出版社ごとにご意見をお願いいたします。最初に、東京書籍についてご意見をお願いします。

委 員：巻頭の見開きに、1年生は「数学の世界へようこそ」、2年生は「数学をもっと深めよう」、3年生は「数学を探究し続けよう」とあり、数学を勉強したいという動機付けになっていてよいなと思いました。見やすく、自分で勉強を続けていくことができると感じましたが、「なぜそうなるのか」を、みんなで話し合いながらどのように結びつけていけばいいのか、疑問に思いました。

- 委員：章のはじめに、生活と関連付けたイラストを使用しています。
数学と生活とを関連付けることができ、非常に効果的だと思います。
- 委員：他社でも取り上げていましたが、1年生で「オリンピックのエンブレムのデザインに潜む数学」を取りあげていて、数学が実社会でどのように活用されているかという例が示されています。
子どもたちにとっては興味深いものなので、数学という教科に興味を持てるのではないかなと思いました。
- 会長：1年生から3年生までかなり分量も多いので、特定の分野だけでも結構ですので、何か感じたところがありましたらお願いいたします。
- 委員：他の教科書と比べて、問題と文章の割合が見やすく、数学の教科書らしいのかなと感じました。
- 会長：次の教科書に入っていて、比較するような段階で、意見を言っていたら結構かと思います。では、大日本図書に關してお願いいたします。
- 委員：マスのフルのページがあり、日常生活と数学のつながりが写真や文章で記載されていて、生徒が非常に興味を持ちやすいと感じました。
- 委員：1年 p.65「仕事の中の数学」などに、どういう場面で数学が使われるかについて具体例が載っていて、私たちの時代にはなかった面白い視点を感じました。
- 委員：3年 p.87～88 で「二次方程式の解の公式」を扱っていますが、数学の先生方は覚えなければならないこととして指導しているのではないかと思います。他の教科書会社と比べて、大日本図書と学校図書は、図のように解の公式をきちんと導いているし、しっかりとした説明があるという印象を受けました。東京書籍にも同じような図形はありますが、数学が苦手な生徒にとってはわかりにくく、大日本図書は丁寧に説明してあります。全体に、図やグラフがわかりやすい説明がされているなという印象を受けました。
- 委員：巻末に「もっと数学の世界へ」という課題学習のページが設定されているのですが、1年生では「鉛筆の芯はどれだけ使えるか」という課題が取り上げられています。面白い題材ではありますが、考え方が最後まで書いてあるので、子どもたちがいろいろな考えやアイデアを出しながらこの課題に対応していくことができる、もっと面白いのかなと感じました。
- 会長：学校図書に入らせていただきます。

- 委員：他の会社もそうですが、Chapter に入る前に、例えば 1 年 p.94 「一次方程式」などが、実際に生活の中でこういう形で使われているということを説明して授業内容に入るので、導入として非常に面白いなと思いました。
- 委員：先生方は数学の題材に入るときに、どんな形で実生活と結びつけて子どもたちに興味付けしていくか苦勞されると思いますが、いいヒントとして事例が示してあると思います。
- 委員：「二次方程式の解の公式」のところも、きちんと説明がされているなという印象を持ちました。
- 委員：各章の冒頭のところには、実生活のイメージがわきやすく、数学を学ぶ意義や目的がよりわかりやすい工夫がされている教科書だと思います。このあと学習することについてのイメージを持ちやすいなと思いました。
- 会長：教育出版に関しまして何かございましたら、お願いいたします。
- 委員：1 年生で「負の数の引き算」を学習しますが、数学の苦手な生徒が最初につまずくところという印象を持っています。p.40 は、他社と比べて、比較的簡潔・シンプルでわかりやすい説明をしています。数直線は、どこの出版社も使っていますが、使い方がうまいと感じます。四角の空欄に当てはめながら数直線に落とし込んでいくのはわかりやすく、工夫を感じました。
- 委員：各社、生徒が興味関心を持つように、いろいろと工夫されています。章のはじめに「Let's Try」のページを設けて、クイズ的な活動から学習に入るように工夫されているなと思いました。
- 委員：随所にキャラクターが出てきて、「小学校ではこういうことを学習したね」「算数ではこうだったけどこれからはこうなるよ」と、小学校での学びを復習しつつ中学校での学習につなげる工夫が見られました。
- 会長：では、啓林館に関しまして、何かございましたらお願いします。
- 委員：自分で考えて話し合って学習を深めるという形にしっかりとなっています。よい教科書だなと私は思いました。
- 会長：1 年 p.26「負の数の引き算」では、啓林館だけが p.26 の 1 ページ「説明しよう」だけです。生徒の活動に重きを置いています、疑問を持ちました。
- 委員：「自分から学ぼう 編」では、教科書を縦に使うのが斬新で面白く、独自の工夫が見られるなと思いました。また、身の回りの生活と数学をつなげるような内容も掲載されているので、数学を学ぶ意義や有用性を実感できる教科書になっていると感じました。

- 委員：1年生の教科書で「方程式」を1学期の終わりごろから2学期にかけて勉強するのですが、これも最初につまずきやすいところですが、p.99 方程式の利用で、生徒の数学の学習を日常生活に生かして活用していくという考え方の中では非常に有効なページかなと感じています。3年生の「二次方程式の解の公式」では、考えようというだけで図の説明がありません。啓林館の教科書の特徴がそこにあるのかなと思いました。もう少し丁寧に説明した方が、苦手な子にとってはよいかなという思いは持っています。ただ、今の学習指導要領の求める数学の指導の在り方についてはきちんと踏まえているという感想を持ちました。
- 委員：「自分で学ぶ」「みんなで学ぶ」という区別がはっきりしていて、工夫されていて使いやすいのではないのかなと思いました。
- 会長：それでは、数研出版に関しまして、何かありましたらお願いいたします。
- 委員：「探究ノート」があり、活用の幅が広がるだろうなと思います。が、他の教科書に比べて非常に分量が多いと思いました。
- 委員：授業を離れて、生徒の家庭学習としても活用できますね。
- 委員：別冊だと、家に置いておいて、家で勉強する分にはよいのですが、子どもたちが忘れてくるなど、使えるのかなと疑問に感じました、
- 会長：それでは、次、日本文教出版に関しましてお願いします。
- 委員：見た目がすごくすっきりとしています。他の教科書がいろいろなイラストや写真が出ているのに対して、余白も多くて見やすいなと思いました。
- 委員：私も同様の感想を持ちました。P.31「負の数の減法」の図が、大日本図書の図とよく似ていますが、非常にシンプルですっきりしています。ポイントを非常にうまく押さえているなという印象を持ちました。p.102「等式の性質」を押さえるところですが、図を有効に使いながらシンプルだけれど的確に押さえているなという印象を持ちました。
- 委員：私は数学が苦手なので、あまりにシンプルすぎて、図形のところを見ると、見開きにわたって問題のみが書かれてあり、少し学習がしんどいと感じる生徒がいるのではないのかなと感じました。
- 会長：それでは、数学全般に関しまして、総括的にご意見をいただきたいと思います。
- 委員：啓林館が一番使いやすいのかなと思いました。
- 委員：私は2つなのですが、啓林館と学校図書です。

委員：巻末に、学年ごとに学んだことのまとめが記載してある大日本図書と東京書籍がよいかと思いました。

委員：私は啓林館がよいかと思いました。

委員：私も啓林館がよいかと思いました。

委員：私も啓林館が適しているかなと思いました。

②理科教科用図書の選定について

会長：それでは、続きまして、理科に入りたいと思います。東京書籍に関しまして、何かございましたらお願いいたします。

委員：どういう配慮なのかわかりませんが、縦に長い教科書だなとすごく感じました。これはなぜでしょう。机に置きやすいからでしょうか。

委員：個人的な感想ですが、学校の設置基準に定められている理科室のテーブルに4人が座ってこれを置くと、少し場所をとるかな。もう少し広いデスクなら何とかいくかもしれません。

委員：表紙や裏を見ると、何を教えてくれるんだろうと、写真にわくわくしますよね。

委員：理科は、物理・化学・生物・地学の4領域あります。全体に読み比べたときに、東京書籍は地学の領域が少し弱いのかな。ただ、2年生の天気で、「露点」を求めるところは充実しているのかな。学年によって多少差はありますが、一番強く感じるのは、1年生の地学の領域で、他社と比べて内容が薄くて、絵本のイメージかなと感じました。それから、3年生の地学では、「金星の満ち欠け」が出てくるのですが、他社に比べて、これではうまく説明がしきれていないのかなと感じました。一方、1年生の化学領域で、「硝酸カリウムの溶解度」については、きちんと説明がしてあるのかなと感じました。ただ、全体的に、内容があまり専門性にはこだわっていないという特色があるのかなという印象を持ちました。

委員：付録などはどうですか。「星座」など、なかなか理解できなかった覚えがあるので。

委員：面白いですね。立体的にしてしまうというのは、理解を助けるかなと思います。もう少し具体的に申し上げますと、1年生のp.220に「地震が起きる仕組み」があります。地震のニュースが多い中、地震が起こるメカニズムをこんにやくで説明しています。シンプルで非常に分かりやすいのですが、実は、プレートの沈み込みでこんにやくが反発して上がってくるというのは、昭和50年代初頭に、加古川市の視聴覚センターで購入した教

材フィルムの中に出てきます。新しい発想ではありません。他社ではこういう説明はしておりません。もう少し専門的な言葉を使っています。

会長：それでは、大日本図書お願いします。

委員：大日本図書の特徴として、1年生の物理領域の p.147～158、p.164、p.185 が、他社と比べて分かりやすく説明しているのかなと思います。生物領域では、2年生の p.93、p.110、p.119 の図です。これらの図に共通しているのは、生物体の全体を示して、その働きを図で一目瞭然に見せています。このような、全体を示して個別に詳しく示すという図の示し方の工夫が、他社と比べてうまく、生徒の理解を助ける示し方をしています。

会長：では、学校図書お願いいたします。

委員：巻頭にレポートの書き方や発表スライドの作り方が記載されていました。自分の考えをまとめて表現することに重点が置かれているのがよくわかります。

委員：「サイエンスカフェ」などは、非常に興味を持つ題材があるなと思いました。巻頭に、理科の授業の進め方として、「理科のトリセツ」とありますが、取り扱い説明という言葉として、歌詞にもあるのですが、これはどうなのかなと少し疑問に思いました。

委員：教科書としては、少し違和感がありますね。

委員：考え方が古いのでしょうか。

委員：いいえ。決してそんなことはないかなと思います。

委員：学校図書は、大日本図書の物理と比較すると、地学領域の部分の説明が強いのかなと思いました。学校図書の特徴は、執筆者に学校の先生が入っていません。専門家集団である大学の先生方が書いています。そう感じるのが、例えば、1年生の p.233 の大阪の北部地震の実験データを処理させるところです。地震が伝わった時刻、その信号をプロットして同心円を描かせる作業を取り入れています。地震の伝わり方としては、非常に専門的で学術的なやり方を踏まえているなと思います。2年生の教科書では、p.115 にでんぷんが消化されて麦芽糖になって、最終的にブドウ糖になっていく図があります。これは、高等学校の化学で出てくる図をそのまま使っています。この六角形の1つが単糖類のブドウ糖なのですが、それがつながっている図で示しています。図そのものが高等学校の化学、大学の先生が書いたような図になっています。多糖類が二糖類になって単糖類になっていくという勉強をしていく積み上げとしては、非常に

有効かなと思います。ただ、もっと学びやすく簡単に学習させたいという先生方の意図があるなら、ここまで書くのは余計かなという発想もあるかと思います。

委員：中学生には難しいんですか。

委員：いえ、難しくないと思います。中学生はそこまで見ないと思います。先生がひと言触れるかどうかという話です。先生が言わなければそういう発想まで生徒は見抜かないと思います。だから、ここを扱いたい、ここを押さえたいという先生にとってはよいかなと思います。指導者によりけりだと思います。

委員：長くなりますが、もう1点よろしいでしょうか。高等学校へ行ったときに、理科は物・化・生・地の4領域に分かれます。調べたのですが、高校の普通科に行くと、ほとんどの生徒が地学を学びません。全国で地学の履修率は1%です。100人のうち1人しか地学を勉強しないのです。ほとんどの生徒が化学・生物です。この近辺の高校で、地学を開講している学校は限られています。ということは、中学校の理科である程度のことをやっておかないと、高等学校で勉強しないまま、例えば学校の先生になるということも起こるわけです。そういう意味では、先ほど申しあげた地学領域できちんと書いている学校図書はよいのかなという考えを持ちました。

会長：では、教育出版をお願いします。

委員：要点や重点用語の整理、基本問題のページがあるので、知識を定着させるという意味では効果的なのかなと思いますが、観察や実験のあとに、結論のコーナーというのがあるのですが、そこに答えや結論が書いてあり、見開きで課題があって、そのまま結論が見えるというページもあったので、子どもたちが考える学習活動をする上ではどうなのかなと感じました。

会長：なるほど。

委員：「ハローサイエンス」や「科学者列伝」などは、生徒が理科に興味を持ちやすいのかなと思いました。

会長：それでは、次、啓林館に関しまして、何かございましたらお願いします。

委員：東京書籍に続いて、啓林館も非常に絵などが見やすく、特に理科の分野は最初の導入がすごく大事だと思うので、挿絵の使い方などが興味を引きやすい色彩だなと思いました。また、各教科書会社に、それぞれの章ごとに必ずまとめと力試しがありますが、啓林館は、まとめのところがすごくわかりやすく伝えていて、まとめが何ページに書いてあるかが具体的に書いてあ

り、興味を惹く上に、学習内容に関してもわかりやすく書いてあるなという印象でした。

委員：2年生の p.98 に「部活ラボ」というコーナーがありますが、中学生には非常に親しみやすいだろうなと思いました。全体的に神戸や淡路など、兵庫県が多く取り上げられているとも感じました。

委員：1年生の p.150 の濃度計算ですが、小学校の算数、小数点のついた割り算の仕方を説明しています。啓林館と大日本図書（p.91）の2社については、濃度計算で出てくる小数点のついた割り算を生徒に復習させていて、きめ細やかな配慮がなされているのかなと思いました。

委員：啓林館はうまいなと感じます。例えば1年生の p.225 では、レンズで見たときに上下左右の像が逆さに映るということを、この図1枚で説明しきっています。それと、3年生の p.159～160 「中和滴定」ですが、水酸化ナトリウムに塩酸を加えていったときの中和反応です。これは、3年生で最も生徒が理解しにくく難しいところの1つです。そこをモデルで示しています。中和した後、さらに p.159 では過剰に塩酸を加えています。その時のモデルまで用意しています。こういう表示をしているのは他にありません。中和までです。生徒の理解を助けると同時に深める工夫を細かいところまで配慮ができているなと感じました。

会長：それでは、全体で理科に関してご意見をお願いいたします。

委員：今のお話を聞いて、啓林館かなと思いました。

委員：啓林館がよいと思います。

委員：QRコードも非常にふんだんに記載されている、啓林館がよいかなと思いました。

委員：啓林館で結構です。

委員：啓林館がよいと思います。

委員：私は、啓林館と学校図書を推薦させていただきたいと思います。

③美術科教科用図書の選定について

会長：それでは、美術は、開隆堂からお願いいたします。

委員：他と比べる形になりますが、他社は、原寸大で掲載されている作品があり、インパクトを与えるような作品が多く掲載されていますが、開隆堂は、原寸大の迫力のある作品の掲載が少ないように感じました。

委員：アニメや映像など、授業としては扱いにくく、評価もしにくいという報告でしたが、興味付けの意味では、現代的なものも題材としてあがっていて、面白いなと思いました。

委員：QRコードで美術館など所蔵先とリンクするようになっていました。ただ、見ても難しかったです。

会長：それでは、光村図書に関しまして、何かございませんでしょうか。

委員：巻頭の見開きに谷川俊太郎の「うつくしい！」という詩で引き付けて、光村図書的だと感じました。1年生 p.19 に版画の資料があって印象深かったです。2・3年生の p.38 に手塚治の作品があり、印象的でした。

委員：QRコードから作品の解説が聞けるようになっていますが、生徒が感じたことを出し合うような活動を大切にしてほしいなと思います。

委員：美術史になりますが、他の2社は仏像を扱っていますが、光村図書は仏像がありません。教科書会社の考え方なのか、仏像の鑑賞は少し難しいのか。西洋絵画で言うと、ポピュラーなモネの睡蓮を扱っています。扱っている美術作品で、その社のスタンスが少し表れているかなという印象を持ちました。

会長：では、日本文教出版に関しまして、何かございますか。ここは教科書が3冊に分かれています。

委員：生徒が制作したり共に活動したりしている写真が多くて、好感が持てました。

委員：1年生の p.58～62 の「発想・構想の手立て」「鉛筆で描く」「さまざまな技法で描く」ですが、この展開と中身を他社と比べてみました。開隆堂は p.52 から「鉛筆で表す」、光村図書は p.58 から「どれで描く？どれで塗る？」とありますが、3社で比べた時に、日本文教出版が、一番内容が充実していてよいのかなという印象を持ちました。特に、p.61「さまざまな技法で描く」、p.62「遠近感」など、このあたりが非常にうまいと感じました。2・3年生の下巻 p.30 に仏像が扱われています。開隆堂にも仏像がありますが、扱っている仏像が違います。文章を読んでいったときに、日本文教出版の方が、手や表情をきちんと捉えて、仏像の形に込められた内面・細部の表現方法といったものをきちんと解説しているので、優秀かなと思いました。

委員：1年生の巻頭にアニメのトトロが出てきて興味深いと思います。2年生になると絵画に入って、最後に造形のガウディのところまでいくのが、なかなか面白いなと思いました。1年生の教科

書に、３年間で取り組む流れがわかりやすく書いてあるので、子どもたちは、「３年間でこんなことができるんだな」ということがわかりやすいのかなと思いました。

委員：他社の絵の綺麗さや印刷技術にも驚きましたが、日本文教出版は、単に絵や彫刻を載せるだけでなく、ガウディの幅広い建築が取り上げられていて、どのように取り組まれているのかという視点で教科書が作られているのを見て、素晴らしいなと思いました。

会長：では、全般に何かありますでしょうか。総括してお願いいたします。

委員：日本文教出版でお願いします。

委員：日本文教出版でお願いします。

委員：日本文教出版でお願いします。

委員：日本文教出版でよいと思います。

委員：日本文教出版がよいと思います。

委員：私も日本文教出版がよいなと思っております。

④技術・家庭（技術分野）教科用図書の選定について

会長：それでは、技術・家庭科の技術分野に入りたいと思います。まず、東京書籍からご意見を伺いたいと思います。

委員：情報モラルに関する記述が充実しているなと思いました。

p.6～17 のガイダンスが充実していて、学習が未来へとつながっていることを感じるのではないかなと思いました。

会長：情報モラルに関する点、私も同感です。

委員：p.279 のキーボードの押さえ方などは、私はありがたいと思いました。巻末にある「プログラミング手帳」は、こういうことを積み重ねていかなければならないのだなと確認できました。

委員：学習のまとめというページが設定されていますが、そこに、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力」という３観点で分類して整理されているので、評価等にも活用できるのではないかと感じました。

委員：木工のところで、p.52 から「けがき」、p.54 から「切断」、p.60「穴あけ」と、作業ごとに図が非常にわかりやすく丁寧にまとめているという印象を持ちました。また、生物育成のところが、他社と比べて非常に丁寧だと思います。教育図書はこの領域は手抜きしているのではないかと差異を感じました。東京書籍は、全領域にわたって丁寧に記述しているなと思いました。

- 会 長：では、教育図書はいかがでしょうか。
- 委 員：「ハンドブック」があってわかりやすいなと思いましたが、その分非常に分量が多いように感じました。この教科書は、プログラミング教育の内容が充実しているなと感じました。
- 委 員：私も同感です。p.101「ミニダイコン」の種まき、p.102「ミニトマト」、p.104「キュウリ」などがわかりにくいです。何を準備してどのように注意してやっていくかなどを、もう少し充実すればよいかなと感じました。
- 会 長：それでは、開隆堂お願いいたします。
- 委 員：技術やテクノロジーに関する分野なので、SDGs をもう少し多く取り上げてほしかったなと感じました。
- 会 長：4つの領域の中で、開隆堂は、エネルギー変換の技術、例えば p.160 あたりのところからが丁寧でわかりやすいと思います。回路図に関しても、ここまで詳細な図記号を出しているところは他にはありません。P.170 は難しい内容ですが、動きを変化させるしくみを図を使ってうまく説明しています。エネルギーの保存のところの p.172 も、丁寧に生徒の学習を深めるような内容が記述されているように感じました。ただ、p.232 の情報モラルのところは、東京書籍と比べると、もっと丁寧に書いていただけたらうれしいなと感じました。
- 会 長：全般に何か意見ございませんか。
- 委 員：教育図書についてですが、「ハンドブック」は何なのでしょう。全部をまとめている感じですね。教科書を持たずにこれを持っていると、技術の全体のことをわかるものとして使うにはすごく便利なのかなと思いました。先ほど他の委員が言われた、個別の部分については過不足等があるのかもしれませんが、全体的な意見としては、ハンドブックはすごくまとまっているのかなと申しあげておきます。
- 会 長：それでは、総括的にひと言ずつ述べていただけますでしょうか。お願いいたします。
- 委 員：東京書籍でお願いします。
- 委 員：教育図書と東京書籍の2つです。
- 委 員：教育図書がよいかと思いました。
- 委 員：東京書籍がよいと思います。
- 委 員：東京書籍がよいと思います。
- 委 員：私も、東京書籍が全体によくまとまっていてよいかなと思います。

⑤技術・家庭（家庭分野）教科用図書の選定について

会 長：それでは続きまして、家庭分野に入りたいと思います。では、東京書籍からご意見を伺いたいと思います。何かございますでしょうか。

委 員：写真やイラストが豊富で非常にわかりやすいなという印象を受けました。

委 員：「学習のまとめ」で学習したことをふり返って、自分や家族の生活で改善できることを書くというスペースが用意されているというのが、すごく活用できるのではないかなと思いました。

委 員：付録に、防災・減災手帳や子どもの視野を体験できるものがあるって、充実しているなと思います。

委 員：調査員の班長は、文科省のＡＢＣＤ順ではなく、生徒の発達段階に即した配列になっていて、調査員の中では取り組みやすいという意見が出たとおっしゃったので何も言わなかったのですが、これは、どうでしょう。他の教科書会社と比べて、東京書籍だけは家庭生活が最後になっています。

委 員：質問ですけれども、p.4～17の「家庭分野のガイダンス」の部分を最初に行うという理解で、そのあとは各自治体の状況によって異なるという、教育図書も目次の上に「ガイダンスは１年生の最初に学びます。その他の内容は、学校や地域によって学習する順番が異なります」と書いてあるので、p.4からは最初に学ぶという形で設定されているのではないかなと思うのですが。

会 長：他ありましたら、どうぞお願いします。

委 員：東京書籍の p.138「ミシンの使い方」のところですが、他社と比べて、非常にうまく詳しくわかりやすく説明しているように思いました。もう１点は、p.192～195の「消費者トラブル」のところですね。こういうご時世で社会問題にもなっていますが、このあたりの学習の資料や手立てが、他社と比べて非常に充実しているという印象を持ちました。ただ、他社と比べて少し専門的な言葉が多いのかなと思います。例えば「おやつ」のところ、他社では「おやつ」と表現していますが、東京書籍では p.229に「間食」、おやつをとることを「摂取」など、より専門的な用語が強いのかなという印象を持ちます。しかし、全般的に非常に充実しているなと思いました。

会 長：では、教育図書について、お願いいたします。

委 員：教育図書は先ほどの東京書籍と比べると、文字数が少し少ないので、生徒にとっては読みやすいのかなと思います。まとめ方

も非常にうまくて、平易な表現を使ってわかりやすくまとめているという特色があるかなという印象を持ちました。

委員：写真やイラストが豊富で分かりやすいなと感じたのと、QRコードも随所に記載されているなと思いました。

会長：では、開隆堂について、お願いいたします。

委員：p.64に「持続可能な家庭生活」という、今話題になっているSDGsの考え方を取り入れた単元で、他社と比べて特徴的かなと思います。また、p.88～93の食材が美味しそうですね。本当にきれいに大きな写真が出ています。食パンなどこんなにきれいに撮れるのですね。すごいなと思います。

会長：全体をまとめて何か意見ございますでしょうか。それでは、総括をお願いいたします。

委員：東京書籍でお願いします。

委員：教育図書です。

委員：教育図書でお願いします。

委員：教育図書がよいと思います。

委員：私も教育図書がよいと思います。

委員：私は東京書籍がよいかなと思っております。

⑥外国語科教科用図書の選定について

会長：それでは、次は外国語に入りたいと思います。それでは、東京書籍から順にいきたいと思います。何かありますでしょうか。

委員：まず、ユニットの扉を聞くことから始めて、本文に入っていくという流れがよいなと思いました。1年の聞く活動では、聞いた内容を選んだり、線で結んだりする活動で構成されていて、2年以降は、聞いて理解したことを書くという形で構成されています。また、関連した少量の文章（プレビュー）から徐々に文章量が多くなっていくように、段階を追って進めてあるのがよいなと思いました。

委員：ユニットごとに、どんなことができたかというゴールが明記してあって、目安となり分かりやすいのかなと思います。環境や人権など様々な内容が網羅されてあってすごいなと思います。まさに、英語版の道徳の教科書のように感じました。

委員：2年生のp.33「単語の覚え方」p.69「音読の仕方」など、単語をどのようにして覚えたらよいのか等の「学び方」について、教科書に具体的に示されていて、英語学習に苦勞している生徒にとっては分かりやすいと思いました。

会長：では、開隆堂につきましてお願いいたします。

- 委員：1年生 p.27「英語のしくみ」 p.35 などが要所要所に入っていて、分かりやすくまとめられているなと思いました。これは他の学年でも言えると思います。2年生 p.156 の巻末資料などは、生徒が学習の振り返りとして活用できるのかなと思いました。
- 委員：先ほど報告の中で、Program に①～④の項目があって教えやすいという話がありましたので、教師にとって使いやすいのかなと思いました。
- 委員：p.156 のできるようになったことリスト「CAN-DO リスト」は、他社にもありますが、年に4回チェックできるようになっているのは開隆堂だけで、よいなと思いました。また、4つのパートに分かれています、Program 中の「Retell」（もう一度自分の言葉で言い直す）や「Interact」（やりとりをする）などのパートが毎回確実に設定されているのは、今求められている内容に合っているなと思います。
- 会長：では、三省堂についてお願いいたします。
- 委員：2年生 p.66「狂言 附子」、p.122「星の王子様」などは、NHK などでも取り上げられているポピュラーな教材で、楽しく学べるかなと思います。
- 会長：それでは、教育出版について、いかがでしょうか。
- 委員：1年生の最初に「Springboard」という、小学校との接続を意識したコーナーがあります。例えば p.6 は、イラストが見開きに書いてあり、英語を聞いてどの場面か当てたり、すごろくゲームをしながら小学校で学んだ内容を振り返ったりという工夫がよいなと思いました。また、「Activities Plus」が巻末についていて、やり取りをする中で、質問に対して2文以上で答えるという設定がよいなと思いました。質問に対して、Yes か No で答えるように設定されている会社もありますが、教育出版は、Yes にもう一文を加える形で活動を設定されているのがよいなと思いました。
- 会長：では、光村図書に入りたいと思います。
- 委員：1年生 p.26 に「英語の学び方ガイド」があります。小学校で英語を学習して、中学校に入ってくるのですが、もう一工夫あってもよいのかなという気がします。p.64 からやっと英語の文章が出てきて、それに関するいろいろな練習が出てきます。p.64 までの学習を先生方としてはどのように展開されるのかなと思います。この教科書の特徴は、他と比べてこのようにガイドの部分が非常に長い点にあるのかなという気がします。
- 会長：では、啓林館に関してお願いします。
- 委員：1年生 p.35 の be 動詞のまとめのレイアウト、見た印象が開隆堂と比べると、開隆堂の方がうまいかなという印象を持ちます。
- 委員：文法のまとめは、1色でまとめている出版社もあります。啓林館よりは開隆堂の方が色使いも見やすく、生徒にとっては、理解しやすいかなという印象を持っています。加えて、2年生から单元ごとに、学んだ内容

に加えて、自分で表現するコーナー「Express Yourself」を設けていることや、話したり発表したりといった、やりとりをするページを入れているのが特徴かなと思いました。ただ、2年生の p.87 の「Let's listen」では、搭乗案内で、飛行機のフライト情報を聞き取ろうという内容があります。他社は、聞き取った内容からポイントを明示したり、聞き取るポイントを指定したり、別のものを聞き取ったりするなど活動に広がりがあるのですが、啓林館は、聞き取って終わるという形になるのが残念かなと思いました。

会 長：それでは、全体的に何かありませんか。

委 員：教科書展示会のアンケートの中で、中学校の英語についてコメントを書いていたものがありました。その方は、中学1年生の東京書籍がよいという意見です。中学3年生の英作文で、1つの文に動詞を2つ書く生徒が多いそうです。be 動詞と一般動詞を体系的に解説している教科書は東京書籍に限られるという感想を書いておられました。確かに、NEW HORIZON は、be 動詞と一般動詞を1つのページの中に並列して、文法事項として取り上げています。SUNSHINE については、be 動詞と一般動詞を分けてあります。これまでは分けた形でしたが、生徒にとっては、be 動詞と一般動詞を学習する上で混乱を生むところでしたので、分けてある方がよいという報告もありました。今年度から小学校5、6年生で英語が教科としてスタートしています。文法的な内容については小学校では取り上げませんが、何回も言ったり聞いたりという活動をしているので、それを踏まえて、NEW HORIZON では最初に be 動詞と一般動詞を同じページで取り上げる形になっていると思います。ただ、そうすることで混乱を生むのではと感じる部分もありますが、子ども達は何回も口に出して慣れ親しんで中学校に上がってきているので、小・中のつながりをうまく整理することができれば、NEW HORIZON のまとめ方も活用できるのではないかと思います。どの教科書になったとしても、小学校で教科になっていることや、どのような学習をしているかという現状を踏まえて、教師側も指導を変えていく必要があるのかなと思いました。

委 員：なるほど。英語科の教員も、小学校の様子をある程度勉強しながら教科書をうまく活用していただきたいということになりますね。ありがとうございました。よくわかりました。

会 長：それでは、総括的に述べていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

委 員：東京書籍が開隆堂かちょっと絞り込めません。

委 員：東京書籍と開隆堂がよいと思いました。

委 員：開隆堂がよいと思いました。

委員：私も開隆堂がよいと思いました。

委員：私は東京書籍と開隆堂がよいと思います。

委員：私は開隆堂がよいと思っております。

⑦特別の教科 道徳教科用図書の選定について

会長：それでは、最後です。道徳に入りたいと思います。東京書籍に関しまして、何かありましたらお願いいたします。

委員：いじめや命の大切さに関する教材が充実しているなと思いました。

委員：これまでよく扱われてきた「裏庭のできごと」や「一冊のノート」などの定番の教材が少ないと感じています。「二通の手紙」は3年生の付録についていましたが、新しい資料を多く取り入れているともとれますが、先生方としてはこれまでよく扱ってきた定番の教材もあった方がよいのかなと思いました。

委員：色々なところからの出典があり、読み応えがあるのと、生徒作文に心惹かれるところがありました。少し気になったのが、切り抜いたいろいろな漫画があるのですが、どのようにして使うのか疑問に思いました。

会長：教育出版に入らせていただきます。

委員：タイトルの下に問いかけがあることで、教科書通りの決まりきった答えを先に持ってしまう生徒もいるのではないかなと懸念を持ちました。

委員：いじめ問題についてユニットとして取り上げていますが、いじめに関する教材がやや少ないのが気になりました。また、人物や伝統文化を扱っている教材が多く充実してはいますが、兵庫版の心シリーズの活用も求められているので、関連を考えると少しその内容が多いのかなという印象を持ちました。

委員：各社で同じ教材を掲載しており、文章は全部同じなのですが、2年生 p.56 の「清掃はやさしさ」という教材だけは文章が微妙に違っています。同じ教材をどのように取り上げているかという視点で見ると、教育出版は、p.59 で清掃用具についても取り上げています。読みを深め、学習の中身を充実させるために、教材を取り上げるときに、文章をしっかりと校正して題材を精査しています。p.61 に「学びの道しるべ」がありますが、他社と比べたときに、これがベストとは思いませんが、学習が深まり、よく精査されているなという印象を持ちました。

会長：では、光村図書をお願いいたします。

委員：シーズンに分けていて、タイムリーな部分もありますが、もし、扱いたいところがあるシーズンとずれてしまったらと思

うところがあります。よく考えられてはいるなと思いました。
また、編集者が作った資料が多いのかなという感じがしました。

委員：いじめに関する教材が少ないなと感じました。本市の数年前からのいじめに関する取組は最重要課題になっているので、やはり道徳でも同じだと私は思います。

委員：光村図書の各教材の後ろに学習の手引きが出ていますが、「見方を変えて」は、学習を深めるのによいかなと思います。教材の中に出てくる登場人物の行動について、直接生徒に意見を聞くだけではなく、少し見方を変えた質問が設定されていて、生徒の視野や視点が広がる工夫がされていると思いました。

会長：では、日本文教出版をお願いいたします。

委員：いじめに関する教材を集めて、ユニットとして配置しているのでよい教科書だなと思いました。

委員：先ほどの委員もおっしゃいましたが、3年 p.24「『いじめ』と向き合う」の中で、「プラットフォーム」の資料等、自分の考えや感情と向き合う様々な資料が掲載されており、自分自身を理解することにつながるのかなと思いました。

委員：3年生 p.26「卒業文集最後の二行」という教材があり、他社でも取り上げられています。「考えてみよう」の発問例に「いじめという問題を乗り越えるためにはどんな考えが大切だろう」とありますが、資料を使って主人公に自分の心を重ねて、心の変容から道徳的価値に迫るという進め方なので、この発問を必ず使うということではありませんが、発問例としては、もう少し参考になるものがあれば、先生方も授業をする上で助かるのかなと思いました。

委員：取り上げている内容について最後にアウトプットするというのがよくできているなと思いました。3年生の p.78「稲むらの火」は、兵庫県の話ではありませんが、津波が襲ってくるときに自分の稲に火をつけて命を救ったという話ですが、語り継がれるべき資料が選ばれているのがよいなと感じました。

会長：それでは、学研教育みらいについて、お願いいたします。

委員：1年生の p.46「裏庭でのできごと」は各社が取り上げている教材です。学習のまとめの p.49 に「あなたがケンジだったらどうするだろう」と、図に示すというまとめ方がされています。この会社なりの特色かなと思うのですが、同じ教材の学習の手引きを各社で比べてみると、これは非常に便利で視覚

化する工夫がしてありますが、内面を見つめるという点では学習が深まりにくいのかなと思いました。

委員：道徳の教科書は読み物ばかりのイメージがあるので、文章があまり好きではない人にとっては、視覚的には取っ付きやすいのかなと思います。冒頭の p.2～3「道徳で学ぶこと・考えること」もわかりやすくまとめられているというのが率直な印象です。また、3年生 p.74 の植松努さんなど、現在活躍している人たちを取り上げているのもよいと思います。

会長：では、廣済堂あかつきに入りたいと思います。

委員：1年の別冊 p.13「いじめ撲滅宣言」、2年別冊 p.13「いじめの構造図」などが掲載されていて、加古川市の児童会・生徒会が行っている活動など、加古川市の取組によく合っているなとすごく思います。

委員：「道徳ノート」のまとめ方が充実しています。裏表紙に、それぞれの教材で学ばせたいことが明確に示されていて、全学年一貫しているのが、他の教科書にない素晴らしい点だと思います。他の教科書は、文章を漫然と読んでしまうきらいがありますが、この教科書は、学習指導要領に書かれていることが明確にされていると思いました。「伝統と文化を尊重」「郷土を愛する態度」という項目が新しく追加されたということで、保護者として、しっかり教えてほしいと思っています。集団や社会との関わりに関することの中の、「集団生活や家族」「郷土の伝統や文化を大切にし、発展に努める」「日本人としての自覚を持ち、国の発展に努める」「他国を尊重し、世界の平和と発展に寄与する」など、グローバルを含めた学習の流れがしっかりできているなと思いました。3年 p.128「運命の木一姫路城の大柱」では、地元である姫路城の話が出てくるので面白いのではないかなと思いました。

委員：2点あります。まず、目次ですが、他社では価値やめあてなどで分けて整理されています。色分けはされていますが、価値やめあてが書かれていないことで、子どもたちが読み物を読んで、自分が感じたことを話し合えるので活用しやすいなと感じました。もう1点は、全社で扱われている「二通の手紙」の発問例が、あかつきの場合は、考え・広げ・深めるということで、葛藤させるような内容になっています。例えば、「規則を守って行動すべきだったのか、主人公の思いやりで行った行動に問題があったのかということについて、みんなで考えてみましょう」という発問例があります。子どもたち

が多様な意見を発表することができ、深い学びにつながる発問例が載っているのは廣済堂あかつきだけなので、廣済堂あかつきがよいなと思いました。

委員：私は先ほどの委員の発言を聞いて思ったのですが、この人のこの行為をどう思うかについての話し合いが道德の授業では非常に大事なことです。廣済堂あかつきは、そのような価値葛藤が見られるような教材が比較的多いと思いました。1年生の35の教材のうち5～6教材はその内容にあたり、他社に比べるとよいのかなと思いました。また、偉人や頑張った人の生き様を生徒たちに読んで感じ取らせることも大事です。読んでみて、廣済堂あかつきには、感動的な教材もたくさん見られるなという印象を持ちました。

委員：理科や数学、体育や英語などの専門教科ではなく、すべての教員が関わらないといけない教科なので、生徒たちに何を伝えたいかということ、読み応えのある教材を通して、自分で葛藤を感じ、子どもたちを支えながら、教師自身も育っていけるような感じがしました。

会長：それでは、日本教科書についてお願いいたします。

委員：1年生 p.130「ペーパーバード」は、調査員の意見が分かれていると報告がありましたが、私は正直この教材がよく理解できません。新任の先生方が増えてきている現状の中で、指導が深まらない道德の授業になってしまっているのではないかなと思います。全般的に読んでみて、生徒が身近に感じられる教材がやや少ないかなという印象があります。

委員：「富士山」について扱った題材があります。富士山は素晴らしいのですが、今いろいろと問題があって、それについてみんな改善しようという動きがあるというまとめ方が一般的だと思います。この教科書では、少し賛美しすぎるような感じがしました。また、山中教授の大事な絵についての教材があり、文章が「ジャマナカメ」から始まっています。「ジャマナカ」と呼ばれていたけれど、素晴らしい発見をするような人になったということでこの題名がつけられているとは思いますが、少し違和感を覚えました。

委員：障害者差別解消法や LGBT を取り上げるなど、人権に関する内容が充実しているなという印象がありますが、震災に関するものが非常に少ないと思いました。

委員：遠くはなりましたが、やはり、兵庫県加古川市の教材としては、阪神淡路大震災についての内容も取り扱ってほしいと思

います。廣濟堂あかつきでは、1年生 p.130、教育出版では2年生で「語りかける目」を取り上げています。日本文教出版の1年生で取り上げている「ゆうへ」がありますが、「語りかける目」のような、生徒が読んで涙を浮かべるような、インパクトのある感動的な教材を私たちは期待したい。

委員：難しい文章が多いなと思います。伝統・文化、郷土愛などについては、小泉八雲や台湾についてなどを扱っているよい教材もありますが、教科書としての全体的なバランスが厳しいのかなという印象があります。

会長：その他、全体的に何かありますでしょうか。

会長：それでは、総括的に述べていただきたいと思います。お願いいたします。

委員：廣濟堂あかつきでお願いします。

委員：廣濟堂あかつきで。

委員：廣濟堂あかつきがよいと思います。

委員：廣濟堂あかつきでお願いします。

委員：廣濟堂あかつきがよいと思います。

委員：私も廣濟堂あかつきがよいと思います。

会長：それでは、長時間協議いただきまして、ありがとうございます。これで協議終了となりますので、進行を事務局にお返しします。

4 連絡事項

議事録及び資料の公表について

(事務局から説明)

委員：資料の内容については、確認をして連絡する時間はまだありますか。

事務局：はい、大丈夫です。

委員：こちらが発言した内容が正しいかどうかをチェックして、修正していただいた上で、会長にもチェックしていただいて、それが最終ホームページに公表されるものになるということによろしいですか。

事務局：はい。

委員：わかりました。

5 閉会